

## 第2回石狩市総合計画策定審議会 議事録

【日 時】 令和8年3月26日（木）13：30～15：20

【場 所】 石狩市役所 4階 401、402 会議室

【出席者】 18名（24名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	森 傑	○	委員	桑山 渉	○	委員	星野 ゆかり	×
副会長	酒井 妙美	○	委員	平野 花	×	委員	早川 久夫	×
委員	木村 邦博	○	委員	上田 均	○	委員	草野 竹史	○
委員	小笠原 英史	○	委員	清水 雅季	○	委員	佐藤 眞彰	○
委員	藤田 宏司	○	委員	菊地 功	×	委員	飯塚 諒	○
委員	村本 龍一	○	委員	東 幸子	○	委員	波多野 夢子	○
委員	小山 玲子	○	委員	渡邊 隆之	○	委員	八田 美夕	○
委員	野村 彩夏	×	委員	石田 琢磨	×	委員	徳地 克実	○

※正副会長を除き、あいうえお順

【事務局】 企画政策部長 小島 郁也、企画課長 大川 実、企画課主査 田口 聖悟  
企画課主査 上原 範照、企画課主任 平井 亮自、企画課主任 平野 開人  
企画課主任 山崎 将平

【傍聴者】 0名

### 1. 開会・挨拶

（事務局）

時節柄お忙しいところ、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

只今から「第2回石狩市総合計画策定審議会」を開催いたします。

机の上に置いておきますのが、本日の資料となっております。一番上に「次第」、その下に「委員名簿」、「出席者一覧」、「配席図」、「資料①」、「資料②・第6期石狩市総合計画 基本的方向の検討資料」、「資料③」、「資料④・第6期石狩市総合計画までのスケジュール」となっております。

本日、石狩観光協会の野村委員、石狩市社会福祉協議会の平野委員、石狩市連合町内会連絡協議会の菊地委員、石狩市金融協会の石田委員、子育て支援ワーカーズぽけっとママの星野委員、石狩市校長会の早川委員につきましては、都合によりご欠席となっております。それでは、森会長、よろしく申し上げます。

（森会長）

委員の皆様には、年度末の大変お忙しい中、また足元の悪い中お集まりいただき、心より感謝申し上げます。

本日は、事務局より第6期総合計画の骨子案、そして今後の進め方について協議を行います。前回の計画から10年という月日が経ちました。この10年、石狩市を取り巻く環境は劇的に変わっております。本日は、単なる数字上の議論ではなく、皆様がそれぞれの現場で直接感じておられる『10年の変化』、これを生の声とし伺いたい。それが、次の30年を見据えた計画の基礎になると確信しております。忌憚のないご意見をお願いいたします。

## 2. 事務局説明：第6期計画の骨子について

### (事務局)

資料に基づきまして、次期総合計画の構成案と骨子についてご説明申し上げます。

#### ①計画期間について

現行の第5期計画は社会情勢の変化を鑑み、4年延長して2026年度までとしてまいりました。これを受け、次期『第6期計画』は2027年度を初年度とし、2034年度までの8年間を基本計画期間、さらにその先の2045年を将来像のターゲットイヤーとして策定いたします。

#### ②直近10年の動向について

まず人口動態に大きな変化がございます。出生数は10年前から100人以上減少し、深刻な少子化が進んでおり、旧石狩地区での人口減少は、他2地区と比較すると緩やかであります。一方、厚田区・浜益区の減少は顕著となっております。一方で外国人人口はこの10年で約6倍に急増しております。

人口動態以外では、道の駅開業に伴う市外観光客数の増加や、石狩湾新港地域において、輸出入額の増加に加え、データセンターや再生可能エネルギー、さらには大型商業施設やホテルの進出など、10年前には想像できなかった産業構造の転換が起きています。

#### ③戦略目標の見直しの検討について

各種数値の表す社会情勢が、計画策定当初の情勢と大きな齟齬がないこと等を確認しながら見直しを行い、第6期では従来の5つの戦略目標を継承することは必要である一方、DXの推進、防災・減災の強化、地域交通の維持等、従前の戦略目標に分類しがたい新たな課題が生じてきたことを踏まえ、石狩市創生総合戦略における戦略目標とも整合性を図りながら、変化する社会情勢への対応として、6本目の目標「時代にあったまち（地域）として持続する」が必要と仮定し、市民意見の聴取を実施しています。

#### ④各種意見聴取について

資料1のP7～P11をご参照ください。

#### ⑤総合計画の構成案・骨子案全体について

第1章については、まちを紹介する部分で、これまでの市民意見聴取や庁内研修ワークショップから、市の地域特性や魅力について盛り込んでいくことを考えております。5月以降

に予定している骨子等を市民向けに周知するオープンハウスなどにて、市民意見をいただきながら、検証してまいります。

第2章の基本構想につきましては、先ほど申し上げたとおり、骨子検討時点では変更はないと想定しており、4月から5月の素案検討時に詳細を検討してまいります。

第3章の基本計画については、社会情勢、市民意見聴取や庁内研修ワークショップの結果から、目標を6本とし、各目標の内容を補足するものとして、基本的方向を石狩市創生総合戦略から検討し追加しております。なお、基本計画内の基本施策と、各基本施策の方向性と関連する個別計画については、石狩市創生総合戦略における「関連する具体的な施策」との整合性を図りながら構成を引き続き検討してまいります。

(森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）)

ありがとうございました。

今の事務局の説明について、こういう審議会に慣れていない方もおりますので、補足的にコメントさせていただきます。

まず「基本構想」とは「目標」という意味であり、その目標を達成するために行うことが、「基本計画」だと捉えてください。それで今回の審議会では、「基本構想」は変更しなくても違和感がなく大丈夫である、むしろこれからも目標として掲げていくものであるけれども、それを達成するため何をするかという「基本計画」について、近況を踏まえた見直しを行うということがポイントになります。そこで「具体的に2034年までに何を行うのか」という点で皆様の意見をいただくということ、それに際して近年の状況やこれまでの意見聴取を含めて設定した6つ目の目標を設定した方が適切な基本計画になるということ、ここが事務局の出してきた論点であります。

そこで今回直近10年で変わってきたことをきちんと捉えるということが趣旨となりますので、皆様から意見を貰いたいと思います。皆様から話をさせていただきたい理由としては、同じ平均値の統計的なデータがあったとして、中央値の多い山型のデータであっても、両極端の数値が多い谷型のデータが混在するものであり、統計的なデータを押さえながら、リアルな生活感を捉えることによって、的外れな話になるのを防げるからです。

先に事務局の説明内容について、質問があれば挙手をお願いします。

(徳地委員（浜益梓公募）)

公募の徳地です。以下6点質問します。

- ①行政的な目標に関する文言などが見受けられ、この総合計画は市民向けなのか行政向けなのか。
- ②「目標3 いしかりの資源からモノやしごとを創り出す」について、石狩の漁業、特に浜益地域の漁業に関しては、生計を立てられないほど悪化しており、この地域資源というもののものを捉え直し、新たな地域資源を作ること、すでにある資源を別のアプローチから捉

えることも想定した方が良いのではないか。

- ③「目標 6 時代にあった地域として持続する」のデジタル技術について、行政目線ではないかと思われるが、観光やサービスといった地域ビジネスの一体化のみで限定されていて、中小企業などのサポートなどは想定されているのか。
- ④「目標 6 時代にあった地域として持続する」の防災・減災について、浜益は熊と共に生活しているが、熊に関することが掲載されておらず、この部分は想定されているか。
- ⑤「目標 6 時代にあった地域として持続する」の公共交通について、観光やサービスといった地域ビジネスと一体化を考えたものは想定しているのか。
- ⑥「目標 6 時代にあった地域として持続する」の広域連携、公民連携について、行政経営の推進という行政目線の記述があるが、地域の自立的な運営については想定しているか。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

- ①当然ながら市民向けに作っているものでありますが、最終的な実施の計画のお話になると行政的な部分もあり、後ろの方に行くにつれて行政的な言葉になりがちなのですが、引き続きこういったご意見いただきながら、この後、素案を作っていく中で、皆さんの話を聞きながらですね、言葉遣いも含めて検討してまいりたいと思っております。
- ②地域の資源、新たな資源というところで言いますと、当然ながらの最近の鮭の不良といった部分もあり、今は基本的方向の案といった状態で、今後具体的な施策という形で紐づいていきますので、その辺の言葉遣いも含めて、ブラッシュアップしていきたいと思っております。
- ③DX に関しては、当然行政だけじゃなく、企業をはじめとして市民サービス側の DX というまちづくりの DX も必要となってくると思っており、そういった視点についても引き続き検討していきたいと思えます。
- ④⑤⑥個別施策に関しては、この総合計画の下に個別の施策に関しての計画が紐づいており、各個別計画との関係性を見える化できるように作りこみをしていきたいと思えます。

(森会長 (北海道大学大学院工学研究院 教授))

具体的なご意見ありがとうございました。

冒頭で出てきた、誰の目線なのかという話は丁寧に捉える必要があると思っており、そもそもこの計画は「税金を使って何をするのか」という議論をしていますので、税金を使って何かをする以上、行政が主体となると思えます。ただし、行政が好き勝手やるというわけではなく、計画の時に様々な関係の方から意見をいただくということ、また市民と一緒にやっていく施策もあるなかで、この計画が分かりづらい行政文書になるのは好ましくなく、市民の方々に理解、共感していただけるようなまとめ方は大事だと思います。また税金を使って何をやるかということは、すべての納税者に還元するということが大原則になってきます

ので、そこを視野に入れて、2034年まで何を重点的に取り組むべきというところが、今回の議論のポイントになってくると思います。今日はその方向性を出していただいて、今いただいたようなリアルな質問・疑問・体感というのを今日皆様方からぜひいただきたいと思っています。

それでは他に意見が無ければ、順々にコメントをお願いします。

### 3. 各委員発言：各所属の業界や団体等における「10年の変化」

(木村委員（札幌市農業協同組合）)

札幌市農業協同組合木村です。農業現場から申しますと、この10年で高齢化のギアが一段上がったと感じます。10年前は60代がバリバリの現役でしたが、今は70代が主力となっており、言い方は変ですが『70代が若手』のような感覚すらあります。またSNSを使って自分の作物をご自身で売る農家が数名ですが出てきていますが、全体としては農業人口が減っているかと思います。またAIやドローンや自動トラクター等、自動化の技術が日々発達していくのも今の農業の世界であると思います。

(小笠原委員（北石狩農業協同組合）)

北石狩農業協同組合の小笠原です。石狩市で30年間農家をやってきて、ずっと苦しい状態が続き、ここ数年は景気が良かったですが、それに伴う税や申告の負担も増えて、こういった状態を行政が把握しているのかは気になります。また、この総合計画についてですが、農業について書いてある部分が少ないことが気になり、石狩市は農業についてどういう方針を持っているかを伺いたいと思います。

また最終的には農業のゴールは農家の所得アップだと思いますので、その視点は入れて欲しいと思います。

(事務局)

農業の質問に関してご回答します。「目標3「地域資源」からモノやしごとを創る」にて書かれている部分でもありますが、農業については個別の農業振興計画等に繋いでいくことが、この総合計画の役割になってくると思います。

(森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）)

総合計画は計画の最上位であり、全部書くとなるとすごい量になるので、その辺のバランス難しいとは思いますが、大事なご意見ですので、一度検討していただきたいと思いません。

(藤田委員（石狩市森林組合）)

石狩市森林組合の藤田です。年間で大体1万本以上木を切っており、1万本以上も売れて

いるという現状をほとんどの方は知らないと思いますが、その中でここ 10 年の変化としては、2つのバイオマス発電所が出来たことで、そちらにかなりの量を販売しており、そこで生まれた電気が、地元のデータセンターに使われているということで、地域との結びつきが変わったと思っています。問題としては働く人、特に若い人がほとんど根付かないということで、今の中心世代は 50 代 60 代ですから、10 年後にはどうなるのだろうという不安と、後継者ができないという問題を抱えているということがあります。

(村本委員 (石狩湾漁業協同組合))

石狩湾漁業協同組合の村本です。まず漁獲量は 10 年前より悪化しており、自然放流は行っているものの上手くいかない部分もあり、漁業保険制度でなんとか生活をつないでいる人たちもいます。

次に人材面で言うと、漁師は親方になれば船の操縦をして、若い人を雇って魚を取ることが出来ますが、高齢化により陸地で網から魚を外す作業を担う人が大きく減っています。今、現場を支えているのは 80 代の方で、その方々が 10 年後に働けるとは思えない。外国人労働者が増えているものの、彼らのための空き家リフォームや住環境整備にコストがかかり、元手がないと人を雇えないのが実情です。

最後に交通の部分、高齢化に伴って自家用車を手放すと、早朝のバスもないので、朝の出勤方法もなくなってしまっていることがあげられます。

(上田委員 (石狩市スポーツ協会))

スポーツ協会専務理事を務めております上田です。10 年の変化としまして、今まで高齢者のスポーツとして、余暇時間でゲートボールをされている方が多かったです。もう競技としては市内で成り立たないような現状になっており、パークゴルフも見た目上賑わっていてもプレイ人口が減っているのが現状です。これは高齢になってもお仕事をしており、スポーツをする時間がないことが原因です。

また子どもたちのスポーツ環境についても、小中学校の部活動は学校単体では成り立たず、複数校で合同としたり、クラブチームと共同で行っているという状況であるほか、スポーツイベントでは学校対抗戦を行っていましたが、コロナ禍以降は再開できていない状態となっております。こちらは学校の先生方の働き方改革もあり、スポーツへの協力がしたくても出来ない状態になっているのではないかと考えております。

(清水委員 (石狩市文化協会))

石狩市文化協会専務理事の清水です。芸術文化を行っている人々の姿をみると、80 歳を超えても元気になっている方が多く、これは自己満足だけに留まらず、市の活力にもなっていると思っています。ただ高齢化に伴い、文化芸術を行う若い人の数は少なくなっているという事は間違いなく、若い人は集団的に何かのサークルに属して活動するというよりは、個

人の趣味、例えば部屋の中でインターネットを使った活動ですとか、そういった部分での芸術振興という形が出てきており、将来的に繋げていけるかどうか疑問な部分もございます。その中で石狩市が文化ホールの建設構想を立ち上げるという話もあり、若い人との交流や市民の文化芸術振興に資するもので、期待しているところです。

(草野委員 (NPO 法人 ezorock))

NPO 法人 ezorock の代表の草野です。この 10 年で石狩湾新港地域のデータセンターなどの話と、過疎地域の厚田・浜益といった話で、市の特徴がはっきりして、市の輪郭が見えやすくなったと思います。また高齢化に伴い、浜益では 60 代の方が減り、70 歳の自治会長が自治会内の一番若手となっており、また市のまちづくりの中心世代が 40 代にスイッチしていることもあり、今後もこういった流れは続くと思います。またこの 10 年で市民がまちづくりに関わる機会が減って、距離感が生まれていないかという懸念があります。行政側からの働きかけを行っても、市民はどこか他人事になっており、市も市民の反応がないことから問題ないと判断していることが多くなっているようで、今が市民参加の踏ん張りどころの時期に入ってきているのではと感覚的に感じているところです。

(佐藤委員 (石狩市国際交流協会))

石狩市国際交流協会会長の佐藤です。まず本市とカナダ、ロシア、中国との友好都市とは、40 年以上の交流が続いておりますが、ここ 10 年で国際情勢や交通費の高騰もあり、直接の交流が非常に難しくなっております。一方、新港地域での労働を目的として外国人労働者がどんどん転入してきており、本市の外国人人口は今年 1,000 人を超えると思います。今は外国人労働者がいなければ事業が成り立たないというような状況になってきておりますが、外国人労働者の日常生活、日本語教育をどうするかという問題があり、国際交流協会としてはその点を中心にしていろんな活動を行っています。週に 1 回日本語サロンという事業で、日本語で色々な会話やゲームをしながら、日本語を習得してもらったり、日常生活の中では仕事以外のこと、浴衣を着てみたり、海岸を見せたり、ぶどう狩りに連れて行ったりということで楽しんでもらっており、外国人の特に若い人たちからは好評を得ています。こういった事業も拡大したいのですが、本団体は私と事務局長と職員 2 名の 4 人しかおらず人手不足です。本市の外国人が増えていく中でまだ大きなトラブルは起きていませんが、本州の方ではいろんな問題が起きております。事前にそういう対策を取らないといけないと考えており、外国人に対しての石狩市としてのスタンスを、これから本当に協議していく必要があると思っております。

(飯塚委員 (公募))

公募の飯塚です。私は 10 年前に大学 1 年生でして、しかも埼玉に住んでいたのですが、あまり参考にならないのですが、6 年前に厚田の地域おこし協力隊として赴任し、厚田に 3 年半く

らい住んでいて、年は大きく離れていても友人のように接してくれる方が多く、温かさを感じていました。その後、石狩市の市街地に移住してから、そういった接触が一切なくなって、寂しい思いをして、それが私の運営している「石狩ミライゆる会議」を立ち上げた理由の一つになっております。現在は SNS や札幌に遊びに行くという人が多く、それは大きな世間の流れで便利ではあるのですが、同会議で友達のように接してくれる方、困ったときに助けてくれる方の温かい繋がりを作ることにより、30 年先を見据えたときに大きな結果になれば良いと思っています。

また石狩市の図書館の本祭や「ドリームキッズシティ ISHIKARI」にゲスト側やホスト側で参加したのですが、若い人が結構集まっています、商品は売り切れになっていましたので、情報を集められる若い人が結構石狩市にもいるのだと感じた次第です。

#### (波多野委員 (公募))

公募の波多野です。10 年間の比較ということと言いますと、若い世代で共働きがさらに増えているということ、私の周りの 30 代の友人も家を建てる際に石狩市に戻ってくる人も多いのですが、そうすると児童館等の拡充によって安心して共働き出来、働きたい人が働ける環境を整えることが必要であると思います。

農業の観点で言いますと、10 年前は個人農家というところは目立っていなかった、それが直売所の「とれのさと」にて販売していく中で、少しずつブランド化して良かったと考えていましたが、同所での「ベジソフト」というアイスクリームがかなり人気になってきて、駐車場はどんどん埋まって、もちろん全体として売れるけれども、ソフトクリームが大人気で野菜は残ってしまうということが増えています。ジャガイモ、長イモ、人参など単価の低い農産物が余ってくる現状がかなり多くて、去年見た限りでも売り上げがかなり減ってきてしまい、とれのさと自体には 100 名ほど農家さん登録されていますけれども、我々のように量が作れず単価が安い農産物を扱う農家としては、個人ブランディングにシフトをしなければならぬ可能性を危惧しており、そうすると個人農家が新規就農するのはなかなか難しい環境になると考えています。その中で石狩市産農産品の地産地消はもちろん、きちんと売り先があることで、農家として持続することが出来るのかなと思っています。

#### (八田委員 (厚田卒公募))

公募の八田です。この 10 年間で私も子供が出来て一人親で子育てをしています、会社員と実家の水産加工の手伝いをしている中で感じたことは、デジタル化の波は半年単位で先に進んでいるという実感があります。厚田に引っ越してくる際には、30 年後も住み続けられるかどうかという点を踏まえて、フルリモートで厚田に住みながら仕事出来るということと、自分が若かったということが大きかったと思っています。

また、若者の定着という部分では私生活を大事にする若い人が増えていると実感しており、自然環境の中での生活や、小さいコミュニティの中で親以外にも見守ってもらえる環境

というのがすごく良いと思って厚田に引っ越してきたので、その意味でも日々の暮らしをどう充実させていくということが大事と思っておりますが、30年後に自分が60歳になった際に住み続けられるかどうかは不安があります。

(徳地委員 (浜益枠公募))

公募の徳地です。先ほども言いましたが、獲れる漁獲物がだいぶ変わり、10年前は鮭もタコも獲れたため、漁師も一定の収入もありましたし、新規従業員、漁師になるための移住者も結構いましたが、ここ6年ぐらいは新しく移住して漁師になるという人はいません。

また私は漁師以外に「浜ワーク」(浜益特定地域づくり事業協同組合)という人材派遣組織の代表をしており、移住支援も行っていますが、10年前は勢いで移住する人が多かった一方、最近は事前情報を集める移住者が多くなっており、そうすると移住に力を入れているところに負けて、移住者を呼び込むことができないという現状に陥っています。

また野生鳥獣もここまで増加するとは思いませんでした。熊が毎日のように道路、国道を横切ったり、夜に家に帰ると鹿が出迎えてくれるなんて考えもしませんでした。

(渡邊委員 (浜益区地域協議会))

浜益地域協議会の会長の渡邊です。ここ10年でいうと、商店が次々と閉まり、セイコーマートが唯一のライフラインとなっており、他はコープさっぽろの週1回の配達のみとなっています。熊については、朝早くとか夕方に出没して当然農家の人が一番被害を受けています。自治会では役員の担い手がいなくなっており、コロナ禍で中止したお祭りを再開する体力も無い状態です。交通でいうと中央バスの廃止とデマンド交通の開始もありますね。最後に学校が小中一貫として再編されています。

暗い話題が多いですが、若い人達が熱意をもった取組をここ数年始めており、期待しているところです。

(東委員 (厚田区地域協議会))

厚田地域協議会副会長の東です。住んでいるのはトーメン団地、農地は厚田の古潭です。2014年に札幌から結婚を機に移住し、大体10年が過ぎ、当時は70代の方々が農家をやっていましたが、ほとんどの方が札幌の病院に入ったまま戻らない状態で、半減しております。我々の親が亡くなったあとは他に誰も住んでいない限界集落になるかもしれないと思っています。若い人に住んで欲しいと思っていますが、日本全体が高齢化している以上、中々難しいとも考えていますので、関係人口を増やす取組が必要だと考えており、年に2回でも厚田・浜益に来ていただき、あのおじいちゃんおばあちゃんどうしているかなと顔を見せてもらえれば、命を救うことになると思います。

DX化で言えば、本来的には家にいながらも手続きが出来る高齢者にこそメリットがあると思いますが、あれだけ盛り上がっているWBCであってもネット契約を行わない高齢者

もいることから、進まない部分もあると思います。

(桑山委員 (石狩湾新港企業団地連絡協議会))

石狩湾新港企業団地連絡協議会の事務局長の桑山です。新港地域のここ 10 年間の変化を考えてみますと、これまでの物流の拠点から、エネルギーとデータの拠点へと変貌しており、また、商業施設や宿泊施設の立地もあり、産業拠点から多様な拠点へ大きく変化したと考えています。これに伴い、市民の方々が新港地域を見る見方も変わったと考えています。また札幌市から石狩市への通勤者は引き続き多くなっており、新港地域の位置付けや役割を含めて、働いている人たちの観点を踏まえながら石狩市のまちづくりを進めていくこと、総合計画も組み立てることが大事だと思います。

また新たな戦略目標 6 にある広域連携や公民連携について、特に具体的に何をするか、どういった形で進めるかということを決めることが、これからの地域づくりにとって大事だと思います。

(小山委員 (石狩北商工会))

石狩北商工会の女性部の小山です。10 年前はまだ浜益・厚田も 60 代後半のお母さん、お父さんがいらっしゃって商売をしていました。渡辺会長の話にもありましたが、今は浜益に小売店がなく、飲食店はありますけども、セイコーマートさんと移動販売がなくなると、若い方は車で出かけて買い物できますが、高齢者はどうやって暮らしていくのかという不安があります。商工会議所の合併についても相談が進んでいます。またバスの廃止に伴うデマンド交通への移行がありますが、高齢者も慣れていかないといけないと思います。将来的に不安でありますけれども、少しずつ厚田も元気になりたいと皆さんで集まって色々と考えており、この総合計画にも元気になれる取組が入ってくれば良いと思います。

(酒井委員 (石狩商工会議所))

石狩商工会議所女性会会長の酒井です。この 10 年間でいうとまず企業的には雪の降り方が変わったので、除雪に対する対応が変わってきたなと思います。今年は雪が降らない日が続いて、急にまとめて降りましたが、除雪車の運転手も高齢化で、夜中に急に集められる人がいないという、そこは高齢化と労働力不足が響いています。

次に自分の子どもたちを見ていて、石狩でイベントを行うとなって、知る手段がやっぱり SNS が中心となっていると思います。以前は広報紙が中心だったと思いますが、今は Web で確認することがほとんどだと思います。

重ねて石狩市にコストコやホテルが立地したことで、市に何があるかを話しやすくなったこと、また観光に来る人にも案内をしやすくなったと思っております。

最後に町内会離れについてですが、空家問題にも関係がありますが、会員が減って空家が多くなったことで回覧板を回すために遠くまで行く必要があり、SNS で回覧板を回してい

るところも出てきましたが、SNS を行っていない人もおりますので、中々難しい部分かと思えます。

(森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）)

皆様、どうもありがとうございました。大変リアリティに富んだご意見をいただき、私自身も勉強になりました。

今後に向けた私からの感想と意見をお話しさせていただきます。まず、今日いただいたご意見についてですが、総合計画という最上位の計画に関しては、皆様からいただいた意見を文言としてすべて反映させることは非常に難しい部分があります。今後、事務局としては、今日いただいた意見がどこに関わるのか、例えば表現や文言について整理していただくことになると思います。

よって次回の審議会では、今日いただいた意見がどのように総合計画に反映されるのか、その整理結果をご報告いただきたいと思います。細かい部分まで反映できないかもしれませんが、リアリティを持った表現を選んでいただくことが大切だと思います。イメージの持ち方によって、言葉の選び方や表現が大きく変わってきますので、その点を丁寧に進めていただきたいと思います。

また、他の自治体でもよく申し上げることですが、上位計画に意見を吸収する際、あまりに抽象的になりがちです。整理いただいた意見がどの個別計画に関連するのかを明確にし、その部分をセットで整理していただくことで、各計画に引き継げるような資料となります。このような点もご検討いただければと思います。

それから、今後の課題として、人口減少と高齢化について触れておきたいと思います。日本全国で人口減少と高齢化が進行しており、以前のように自治体間の競争を促す施策は限界に近づいていており、国からもそういった通知が出ています。今後は、地域内外での連携がますます重要になってくると考えられ、自己完結型の解決策では限界があるため、連携を強化してお互いに助け合う仕組みを考えていくべきだと思います。さらに、人口減少についてですが、単に人数を増やすことは非現実的であり、減少を受け入れた上で、いかに一人一人の生活の質を向上させるかが重要です。数を増やすことよりも、現状の住民一人一人の生活の質をどう高めるかに焦点を当てていくべきだと考えています。

最後に、目標6について少し触れさせていただきます。目標6だけが「まち」が主体になっておりますが、目標1～5と同じく、「いしかり」としての主体的な表現が欠けていると感じました。「市民一人一人が活躍する力を発揮する」といった市民主体の意味合いをより強調する表現を採用することを検討すべきだと思います。自治体が主語になると、市民が自分事として捉えづらくなってしまいうため、その点を工夫していただけると良いと思います。

今後事務局の方で最大限クオリティアップしていただけると思いますので、よろしくお願ひします。では最後に事務局より策定スケジュールについて説明をお願いします。

#### 4. 事務局：今後の策定スケジュール

(事務局)

それでは、資料4をご覧いただきながら、策定スケジュールについてご説明いたします。

・5月中までに基本計画内の構成等を庁内で検証し、骨子に関する市民周知をオープンハウス等で実施します。

・6月22日に第3回審議会を開催し、計画の素案をご報告予定です。

・8月7日に第4回審議会を開催し、素案に対する答申をいただく予定です。

・9月中旬から10月中旬の期間にパブリックコメントを実施し、11月10日に第5回審議会で完成報告を行います。

・最後に、12月の第4回定例会において、議会への上程を予定しています。

また草野様から話のありました、市民参加につきまして、石狩市は平成13年に全国に先駆けて市民参加条例を制定し、平成20年からは「協働」を基本にしたまちづくりを進めてきました。市としては、これまでの取り組みに自負を持っておりましたが、距離を感じさせてしまっていたのではないかとということで、あらためてそういったものも検証しながら、今後も市民との距離を縮め、より良い計画づくりを目指していきます。引き続き、どうぞよろしく願いいたします

(森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）)

それでは、長時間にわたりご協力ありがとうございました。これをもちまして、第2回石狩市総合計画策定審議会を終了とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。

以上

令和8年 3月31日 議事録確定

石狩市総合計画策定審議会 会長 森 傑